

地域文化論

△その171
織媛の伝説に
ひかれて巡る初詣で

—西宮・池田そして太秦へ—

米花

稔／神戸大学名誉教授・福山大学教授

西宮に住みつつ久しぶりに阪神

「西宮東口」近くの松原天神に詣
でる。お目当ては境内の「呉織漢

縫の松」「染殿池」の遺跡、世阿彌
元清作の謡曲「呉服」の舞台であ

る。さる廷臣が住吉詣でから浦づ
たに西宮戎への道すがら呉服の

里の松原で二人の乙女の里人が機
を織っているのに会う。素性をた
ずねるとその昔応神天皇の御代呉

の国から来朝した呉織漢縫である
と語り、既近く装束をかえて現れ、
漢縫が糸を引き呉織が錦を機で織
りあげて献上したという。日本書

紀の伝説にもとづく。糸を染めた

という僅かに残る池と、昭和初期
枯死した古木の再生の松の遺跡を
西宮の松原天満宮

ここにみる。これにちなんで近く
に染殿町、やや東の津門に呉羽町、
綾羽町の地名を見るのである。

「呉服」といえば、阪急宝塚線
「池田」近くに呉服神社があるの
で、そのかかわりを思って詣で
る。ここも久しぶりである。縁起
をうかがうと、さきにふれた呉服
の里はここ揖津の池田であるとし
て、祭神は衣服の祖神を祀る呉服
大神といわれる。今の中国の呉に
遣いをだし機織の工匠を招き、そ
れが呉織漢縫で、猪名の港（猪名
川）に機殿を建て呉服媛を迎えた
という。ここでも市内に染殿井、
綾掛松の遺跡があるという。

西宮から池田へ後の西国街道近
くを進み、さらにさかのぼって、
四条大宮から嵐電で洛西の「かい
この社」に至つてここに詣である。
縁起によると雄略天皇の御代呉の
國より漢織呉織を召し秦氏の諸族
と共に数多くの綾縫を織り出し、
賜った姓からこの地を太秦と称し
たという。推古天皇の御代その養
蚕、織物、染色の祖先として「か
いこの社」が祭られたという。

歴史時代になると、西宮の対
岸、堺港の盛んな天正の頃、明
織工によって明様の紗、紋紗、金
紋紗、錦、縫、羅、縮緼等の織法
が、堺からやがて西陣の隆盛をも
たらし、西陣からさらには全国各機
業地にその技術が伝えられたとい
う。初春の宮詣りが、心に果しな
くロマンを呼び起こしてくれるの
であった。それにも昨今の織
物産業の環境のきびしさが気にか
ることである。



京都太秦のかいこの社

■ほろ酔い対談

「花は半開を見 酒は微醺に呑む」べし

酒特集[1]

島 京子／作家／

高橋 孟／漫画家／

★戦地で死ぬものと思い決めていた人が…。

司会 本日はお二人に酒にまつわる思い出や、酒を仲立ちとする交遊録についてお話しをいただきたいと思います。まず、高橋先生はいつ頃からお酒を飲み始められたのですか。

高橋 海軍に入つてからのことやなあ。それまでは奈良漬食べても顔が真っ赤になってしまふ体质やつた。信じられへんやろ(笑)。今でも飲んだらすぐ顔に出るほうやけどな。

島 初々しいな。やっぱりお酒は飲むにつれて強くなるもんやね。

高橋 本格的に飲み出したのは串良航空隊で下士官になりましたの時。九州の大隅半島の、アメリカ軍が上陸すると想定された志布志湾のところや。海軍軍人が酒も飲めんのか!という風潮があつて、宴会の時、五合くらいはいる漆ぬりの朱杯になみなみとがれた酒を「いただきます」言うて飲んだがな。

島 ええ話やないの。

高橋 これが本格的な酒との出会い。それから今日まで長いつき合いが続いとるんや。

島 私が飲み出したのは戦後ですから、昭和二四、五年

島 今は一気飲みで命を失う人もいるんやから、注意せな。

高橋 わしら、心臓強かつたからな、大丈夫なんや。若いし、毎日鍛えとったから。

島 で、その宴会の日、解散するまではしつかりしとったんよ。ところが下宿への帰り道、串良の町のご婦人がわしを避けて歩くんや。民間人の前で海軍下士官がフラフラする説にはいかん!と凜々しく歩いてるつもりやねんけど、千鳥足やつてんやろな(笑)。部屋に入つてからは夏やし、アルコールで体は暑いしで蚊帳の中では寝られへん。わしはその先は覚えてないんやけど、後で下宿のおばさんとに聞いたら、嫁はんが一晩中、蚊がこんように煽いどつてくれてたらし(笑)。

島 ええ話やないの。

高橋 私が飲み出したのは戦後ですから、昭和二四、五年



「本格的に飲みだしたのは、海軍時代のこと」と高橋 孟さん（左）。「戦後すぐの頃は、文学グループの集まりで、焼酎ばっかり飲んでたわ」と島 京子さん（右）。

の頃。文学グループ「バイキング」に入つてからのことですね。「バイキング酒」って勝手に命名してたけど、ビール瓶くらいの宝焼酎、そればっかり。安かつたからやろね。当時は二級酒でも貴重品やつたから。高橋 メチル飲んで失明した人もおるんや、宝焼酎は上等やで。

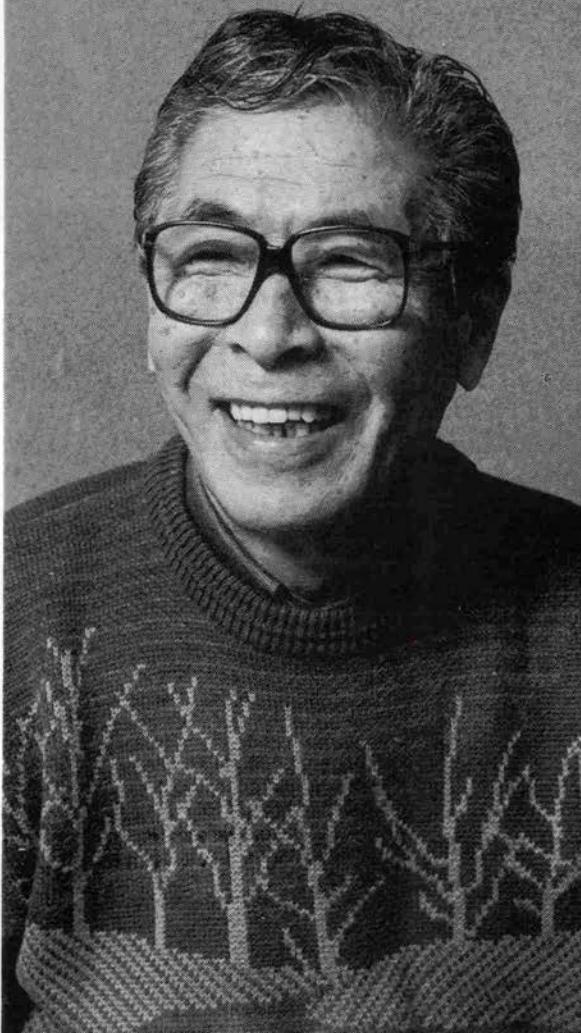
島 あの頃は戦後の解放感もあって、ほんと面白かったわ。島尾敏雄さんとか庄野潤三さん、富士正晴さん伊東幹治さんと、兵隊帰りの人が多くったでしょ。死ぬものには特別なものがあつたね。それに好きなことが言えて、外も自由に歩ける。ずっと縮めつけられた生活をしてたから、解き放された時の喜びといつたら…。お金も物も無くて、あるのは書きたいという気持ちだけ（笑）。原稿はなんぼでも集まるの。だから紙を貰いに行って、自分達でガリ版刷つて。本に綴じる木綿糸が無かつたので、当時の「バイキング」はたたんだだけやつたのよ。高橋 戦地から帰つた男は皆飲んだ。酒しかなかつたしね。わしにとって酒は嗜好品ではない。薬効のある精神安定剤やね。

島 アルコールを手に入れるのが困難な時代に、ボトルを一本空げてしまうのは、戦地体験者やつたわ。私の知つてた医者の人がね、実験として中国人の人を何人も殺したんだって。そのことを忘れられず、辛い思いから逃れたくて、浴びる程飲んでたのね。結局その人も短命やつたけど。

高橋 生きて帰れるかどうかは、ほんま紙一重やつたからな。わしもフカにかじられてへんかつたら、どうなつてたか。

島 どういうこと？

高橋 乗つてた船がやられて、「総員退艦！」と号令かけられたんや。「退艦」言うたかて、まわりは海やがな、飛び込むしかあらへん（笑）。ほんでいかだに揺まつとつ



たかはし もう 1920年、徳島県生まれ。徳島民報、新大阪新聞を経て、神戸新聞社に入社。20年間にわたって時事マンガ（笑点）を毎日連載。週刊文春に田辺聖子とコンビで15年間挿絵マンガを連載。朝日テレビ「土曜の朝に」に7年間出演「夫婦マンガ」を描く。著書に『海軍めしたき物語』『海軍めしたき総決算』（新潮社）。兵庫区在住。

たらフカにかじられたんや。三人ほどおらへんようになつてしまたけど、わしは右足をかじられただけ。あまり美味くなかったんかな（笑）。両足の真ん中をやられてたらえらいことやつたけど（笑）。負傷したもんで、陸に上がらされたんや。今ではフカに深く感謝しとる（笑）。

★精神的ハングリーこそクリエイターの原動力。

高橋 わしは酒を飲み出してからほんまの漫画が描けるようになつたと思うところがあるな。クリエイティブな力は、新聞記者だった父の血をひいてると思う。父は酒飲みで、アイデアマンやつた。明治の男やつたから、朝から袴姿で一升瓶を横に置いて原稿を書いてた。それがいなせやつたんやね。

わしが新大阪新聞から神戸新聞に入ったのは昭和二九年のこと。どこでもあることやろうけど、新参者は試される（笑）。先輩にすごい酒飲みが揃つてて、「酒も飲めんやつに仕事ができるか」と誘われるんや。わしにしてみたら、歓迎されてんのか、いじめられてんのかよんね。

島 いやいや、作文のようなものをちよろちよろ書いてたくらいで（笑）。『市民タイムス』いう、文芸色の強い新聞があつてね、そこで記事を書いてた。神戸新聞の人も、ええ新聞や、言うてえらい誉めてくれたよ。すぐ潰れてしまたけど（笑）。私は新聞記者になりたかつてん。そら、神戸新聞とか入りたかつたわ。そやけど今思うに新聞社なんかに入社して定年まで勤めたら、自分の文は書かれへんかったね。

高橋 クリエイターでいようと思ったら、ハングリーな境遇にないとな。頭も体も、腹が減つてるとの方がよく働く。ハングリーごっこでは、パワーにならんけど……。

島 大金持がほんまの芸術家になる例は、あまり聞かへ

高橋 それでいて根っからの貧しいのはダメ。精神が貧弱なのはいかん。育ちは良くないと…。

島 人間というのは死に行く身でしょ。精神的ハンギリーというのは、人生の無常を感じ続けることやねん。それを忘れてはいるようでは、より良く生きることなんてできへん。人に感動を与えることなんてできないよ。

高橋 欠乏時代に酒にありついた時、欲しかった本を手に入れた時の幸福感は口では言い表されへんくらいやつたな。

島 そうそう。欠乏時代を知つてるのは、ある意味で幸せよ。

★ビールの小瓶が似合う粹な女になりたいね。

島 最近は女一人で、とか女同士で飲みに行くことがあるけれど、ひと昔前では考えられへんことやつたね。御飯を女が一人で食べるのも惨つたらしいと思つてたのよ。それがある時、ビールの小瓶をテーブルに置いて、一人で定食を食べてた素敵な女性を見掛けたという友

人の話を聞いてね、それがサマになるのは粹なことやなあと思い直した。

高橋 コップ酒をぐいぐい飲んでも平気な顔をしているのは、の方が多いかな。でもそういう人は実は家に帰つてドアを開けたらバタンキューらしいね。酒場にはなんとか粘つて二人きりになろうとする送り狼が並んでるからね(笑)。ママや女の子はそれをみんな読んでる(笑)。千鳥足の女は見たことがないわ。日本では男の酔っ払いに寛容やね。

島 一緒によく飲んだのは桜井利枝さん、久保田匡子さん。強かつたわ。昔、三宮神社の境内にあった「園」、それから「クインビー」、「セブン」。今は「マコ」「美媒華」「えこーる」がよく行く店やね。

高橋 神戸で初めて飲んだ「小豆」、ここは文学ママがおつた。「オアシス」「ファーストバブ」も懐しい。「スタイル」「武田」は今よく行くよ。

しま きょうこ 1926年、神戸生まれ。「VIKING」同人。「湯不飲盗泉水」(1965)が第54回芥川賞候補となる。「逃げた」(1968)により第1回三洋新人文化賞受賞。著書に『母子幻想』(1981 構想社)『座下がりの食卓から』(1984 芸立出版)『世相歳時記』(1982 砂子屋書房)ほか。東灘区在住。



渡すところがあるからねえ。女の子の話題が乏しい分、客に歌わせといたらそら樂やわな。昔はほろ酔いのちょうどええ時に「ボロロン、お邪魔します!」と流しが来たりしたもんや。

★三宮は「夜の図書館」だらけ?!



高橋
「街は屋根のない図書館である」とどつかの作家が言うてて、うまいこと言いよるな、と思うとんねん（笑）。わしは酒を飲む時、横のつながりを非常に大事に思ってる。大抵の人間は一つや二つのドラマは持つてはんねん。酒場ではその筋のエキスペートがすぐ隣に座ってるんや。昼間には聞けないような「実はな?」という話が次々出てくる。人間一人一人が一冊の本に値してて、それがズラーッと並んでると思うとんねん。本を読んでいて著者に尋ねたいこともでてくる。そやけど出版社に電話して住所きいて調べようにも、それはなかなか手間やわな。ところが夜の図書館の本はすぐに答えてくれる（笑）。夜の図書館にもいろいろあつてね、裁判官の集まる店もあれば弁護士の店、ゴルフでプロ級の腕前を持つた人の集まる店、役者、医者の店もある。疑問に思うことができたら「あ、あの店行けばタダで情報はいるわーてなもんですわ（笑）。飲み代はかかるけど、無駄な酒は飲んじゃないよ。そしてそこにお目合ての女の子がいる」と、尚よろしい（笑）。三宮は図書館だらけやね（笑）。

島
お酒のええところは、ほろ酔い加減の時、良いアイデアが浮かぶことやね。ほろ酔いは素敵なエネルギーを増幅してくれる。昔から「花は半開を見、酒は微醺に呑む」と言うでしよう。日本人は「しゃべらぬはしゃべるに勝る」とか言うて、しゃべりを軽蔑することが多いわねえ。それが普段は寡黙なのにお酒がはいるところつと変わつて陽気になる人がいる。わあわあ言うての間隙をついて、ええことしゃべったりするんや。カモカのおつ



前列右より2人目、庄野潤三。2列目右より、富士正晴。島尾敏雄。後列右より2人目、島京子。1人おいて久坂葉子。



昭和25年4月、帝塚山会館にて 島 京子

ちやんがそうやねん。思いがけない視点から、鋭いこと言うねん。あの人は飲まさなかん(笑)。読売で漫画描いてはつたイワタタケオさん。あの人も気の弱い人やつたけど、飲んだら豹変。悪戯好きのござんでねえ、道の看板を担いだりしてましたわ(笑)。

高橋 彼とは良きライバルやつたなあ。新聞の風刺漫画は毎日結果がでるからねえ、祝い酒になったり、やけ酒になつたりと、毎晩、明日はどっちの酒を飲むんやろうと思つてたよ。

飲んでる時にふつと名言ができるっていうのはあるね。自分でもうまいこと言つたなと思うことがあるもん(笑)。で、相手にもそれがあつて、お互いどんどん掛け合いになつていくのが楽しいね。わしの言つたことを相手がメモしたりしてな。その名言がいつ出てくるか本人にもわからんのがまた面白い。目がすわってしもたら、もうあかんけどな(笑)。コーヒーでは最初から出てこんよ。

島 小説が売れた時に飲む酒が、やっぱり一番美味しいわ。気の合う仲間が集つてくれて、安心して飲むのがなんとも言えず好きやね。

高橋 これから先、どんな人、どんな酒と巡り合っていくやろなあ。美味しい酒を飲み続けたいものやね。わしは「夜の図書館」で更なる勉学に勤しむつもりや(笑)。

今夜の島さんとの酒も実に美味かつた(笑)。

△栄弥にて▽

そして、また神戸(4)

極上の不良気分

酒特集②

村松 友視作家

写真・池田 年夫

「ラインラント」で食事をして神戸の街へくり出す……これもまた、きわめて神戸らしいセンスのスタートという気がする。ディナー・セットを注文するもよし、手づくりソーセージでビールやドリンク・ワインをたしなむのもよしというわけで、この洒落なレストランの懐は意外に深い。『摺りおろしたジャガイモと大量のバターをペタソコにしながら、キツネ色になるまで焼く』と説明されている「ロステイ」など、神戸の店が一瞬にして南ドイツかスイスにお直ししたかのような気分を与えられ、ビールやワインの味をあおり立ててくれる。

ドイツ料理に取り組んでいるうちドイツ料理のようないい感じのマスターは、どうやら客の注文に応じていろいろと料理を工夫してくれるタイプのようだ。シュタイヒヘーガーを小さなグラスにもらひ、これをぐいと一気にあおつてからビールを飲むというのもマスターに教わったやり方だが、これはちよいと癖になりそうだ。ワインにしても、あれこれと喋っているうちに、料理に合ったのをすすめてくれる。家庭料理のあた

たかさと、あるレベルを超えて愉しもうとする客を満足させるプロの奥行きの、両方を持ち合わせながらいわゆる強面の店になつていなかつたり、マスターの個性が十分に生きている素敵な店……石原裕次郎華やかなり頃の『ごきげんな店』というセリフがなつかしく思い出されたものだった。

さてその次は私が敬して遠ざけて……いや遠ざかっていた、かの「アカデミー」へと思い切って足を向けた。十年前に三ヶ月ほど神戸に仮住いしていた頃も、大きな歩道橋の階段を降りたところにある、蔓のからまつた建物の前へ行つては、入る勇気がなくてあと退りした、私にとっては大いなるこだわりの店だった。それから何度も神戸を訪れ、そのたびに店の前へ立つのだが、気の弱い押売りみたいな物腰で引き返すことをくり返していた。

私のカミさんなどは一、二度入ったことがあると言っていたが、女は度胸があるというか無神経のだった。そんなあれやこれやの思い出をもててそびながら、私は思い切つて「アカデミー」のド



シェフの手づくり料理が絶品の「ラインラント」。 中央区下山手通1-1-1 電392-3679 (営)17:00~ 火休

アを開けた。こんな大袈裟な思い入れは、およそ神戸紳士の自然体とは合わないのだろうが、これはもう私の中に宿痾の病いみたいに棲みついている感覚だから仕方がないのだ。

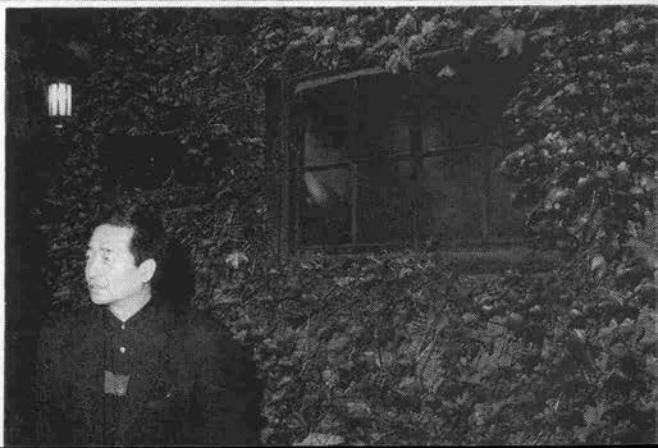
店の中へ入り、カウンターの中のマスターと目が合って、それまでの屈託が軽いまま溶けてしまった。七十年もつづいているバーの空気が、私などの小賢しいこだわりをやんわりと消してくれたという気もするし、私以上の大きなこだわりをもつマスターの眼差しの手品かもしぬなかつた。「アカデミー」へはそうやって初めて入ったのだが、不思議なことに私が描いていた店の雰囲気と同じだった。初めて入ったのになつかしい店……それが、私にとっての「アカデミー」初体験の実感だった。

話してみるとマスターは私と同年輩、オルテガ、カルネラ、ドン・レオ・ジヨナサンなどという往年のプロレスラーについて話したりしているうちに、そういう話をしようと待ち構えていたのに何で来ないんやと、かつて神戸に仮住いをしていた私の



神戸で一番古いバー「アカデミー」中央区布引町2-1-1 電221-5907
(営)18:00~23:00 第1、3日曜休

ことを思つていてくれたというマスターの言葉を聞き、こだわりというのは厄介だと痛感した。おそらく、店の中のマスターのこだわりが外に突っ立つた氣の弱い押売りの私へのプレッシャーとなっていたのだろう。つまり、お互のこだわりが十年間も二人を疎縁にしたのであり、初めてなのになつかしいのは当り前というわけだ。ギムレットを飲んで外へ出るとき、私があたかも「アカデミー」の常連であるかのごとき図々しい顔になっていたのは言うまでもない。これから神戸を訪れる





「ザ・タイム」のマスター宇座さんは30数種のオリジナル・カクテルのレシピをもつ。

中央区加納町3-2-8 電334-0723 (営)17:00~24:00 日休

たびに、私がここへ足を向けるのはまちがいのないところだらう。

七十年の歴史をもつバーから、二年前に開店した「ザ・タイム」へ河岸をうつした。そして、ここにもまったく別の流儀のバーらしいムードがあり、毎度のことながら神戸という街の奥深さを感じさせられた。この店には、先代からの空気の尊厳がただよう「アカデミー」とはちがう、これから歴史を刻もうとしている店の生々しさがただよっていた。

カクテルという存在について、すでに登録されたメジャーな名前を口走るのも心地よいが、その場で一句詠むように即興でつくられる世界もわるくないという気持ちを、私はひそかに抱いている。松江に行つたとき、あるバーで「不昧公」というカクテルをつくってくださいと注文したら、マスターが玉露リキュールをベースにしてシェリーで振つてくれたのを思い出し、何か和風のカクテルはと試してみると、にっこりとうなづいて「利休」なるカクテルをつくってくれた。



僕の深いバー「トム・キャンティ」。 中央区加納町4-9-17 電331-2122 (営)18:00~1:00 日休

吟醸酒をベースに、抹茶のリキュールと抹茶そのものを合わせたそうだが、これがなかなかの風味、女性客にも人気があると聞いて私は大きくなずいた。店と客との風雅な関係が思い浮び、「ザ・タイム」もまた私の頭に強く焼きついた。女性を連れて来るのは最高だな：私は、当てもないのにそんな呟やきを呑み込み、悦に入つてしまらくの時をすぐさせてもらつた。

いろいろな店を飲み歩いたあと、ゆつたりと落ち着きたいと思つたときの店も、神戸の街はちゃんと用意してくれている。御存知「トムキャンティ」だ。適当な暇わりと適当な静かさ：なかなか成立しにくいはずのムードが、ごく自然に出来あがつていた。マスターとのやりとりも気分よく、私はラム酒のおいしいやつを教えてもらい堪能した。一人でも女性連れでも悪友とでも、どんな組合せでもこの店の雰囲気には、すんなりと馴染んでしまうだろう。おいしいラムの酔い心地がフィナーレとなつて、私は極上の不良気分でホテルへ向つたのである。

Asahi
アサヒビール



◎あきかんはリサイクルへ

アサヒ ピュアゴールド

ビールは、20歳になってから。

アサヒビール株式会社

うまロ・生ビール。

発好
売評
中

SAPPORO

結局、飲んでる
黒ラベル



サッポロ[®]黒ラベル

サッポロビール株式会社

飲酒は20歳をすぎてから

特集[3]

'94神戸酒徒番附選考座談会

堅実な一年の神戸経済界

西／経済人
（審査員）

木下 健
（富商店取締役社長）
角田 嘉宏
（弁理士）

寺本 混
（淡路屋取締役社長）
重兼 亘
（神戸新聞社広報部部長）



出横綱筆頭が順当だ。

C もう一人は伊藤ハムの伊藤研一でどうだろう。

B 敵しい経営環境の中、食品は手堅く頑張っていたからね。

A 活躍めざましい乾汽船の乾英文は正大闘に推したい。

B 賛成だ。張出大関は白鶴酒造の嘉納秀郎とジャヴァアの細川数夫二人とも安定している。

A 正闘脇にはつるや衣裳の島田光夫に昇進してもらおう。今年で定年になるが、今まで本当によく頑張ってくれた。

A 人柄も申し分ない。

D 飲みっぷりもよかつた。

B 次に、好調のシャルルの林雅晴、そしてJR西日本の井手正敬がこれに続く。

D 小結は堅実な川西倉庫の川西章二がいい。

A そりやー、ワールドは明るい話題だつた。その伊藤正視は張出小結。これからが楽しみだ。

B 昨年は特に目立った動きがありなかつたようだ。

D そう、目玉がなかつた。アーバンリゾート・フェアがあつたけれど、経済的にもうひとつ物足りなかつた感じだ。

A そう言つても始まらない（笑）全般に堅実であつたと言つておこう。UCC上島珈琲の上島達司の正横綱は動かせない。大証二部に上場したワールドの畠崎廣敏は張界も厳しい環境の中にありますが昨年の神戸経済界の総括をして頂きたいと思います。審査の基準の目安は従来通り、各企業の業績内容、社会への貢献度、そして各人の酒量も考慮に入れていただきま

A 60才の定年を迎える人がいますね。

C カワノの河野忠博、タクトの松田英三郎の二人。

B 昨年は特に目立った動きがありなかつたようだ。

D そう、目玉がなかつた。アーバンリゾート・フェアがあつたけれど、経済的にもうひとつ物足りなかつた感じだ。

A そう言つても始まらない（笑）全般に堅実であつたと言つておこう。UCC上島珈琲の上島達司の正横綱は動かせない。大証二部に上場したワールドの畠崎廣敏は張

レジャーワールドは明るい話題だつた。その伊藤正視は張出小結。これからが楽しみだ。

A 次に平幕を。

B 前頭筆頭は神戸コロッケが好評のロツクフィールドの岩田弘

C 文句ないね。それに続くのがノエビアの大倉昊、これも動かせない。沢の鶴の西村隆治も健闘している。

D そして木下真珠の木下章夫。

E 食品とともに真珠も去年よく頑張つたね。続いてファミリアの岡桂

F 晴彦だ。

G イズムの小田健義、ユーハイムの河本武には今年のさらなる活躍を期待したい。

H ノザワの野澤源二郎、小林桂の小林博司は実力者。六甲バター

I の塚本哲夫も良かつた。円高の影響も大きいたいだ。エム・シー

J シーの水垣宏隆、淡路フエリー

K ボートの井植貞雄も順当などころ

L が多聞にもれず、神戸の経済界も厳しい環境の中にあります

M が、従来通り、各企業の業績内

N 容、社会への貢献度、そして各人

O の酒量も考慮に入れていただきま

P す。

Q 60才の定年を迎える人がいま

R すね。

S C カワノの河野忠博、タクトの

T 松田英三郎の二人。

U B 昨年は特に目立った動きがあ

V まりなかつたようだ。

W D そう、目玉がなかつた。アーバ

X ンリゾート・フェアがあつたけ

れど、経済的にもうひとつ物足り

なかつた感じだ。

Q そう言つても始まらない（笑）全般に堅実であつたと言つておこう。UCC上島珈琲の上島達司の正横綱は動かせない。大証二部に上場したワールドの畠崎廣敏は張

界も厳しい環境の中にあります

が、従来通り、各企業の業績内

容、社会への貢献度、そして各人

の酒量も考慮に入れていただきま

す。

B アポロメックの吉岡昭一郎はいささか不調。業界全体が悪かったからね。

A 業界で大躍進した和田興産の和田憲章は入幕してもらおう。マ

だ。

B だ。



重兼 亘さん



角田 嘉宏さん



寺本 淳さん



木下 健さん

ヤテツクの五代友和は経済同友会で委員会の座長として提出した報告書が注目された。兵庫ヤクルト販売の阿部泰久は本年度のJCの理事長に就任。JCI世界会議神戸大会も控えているし期待も大きい。二人とも入幕決定だ。

—前頭は何如ですか。

A 光青工業の橋本哲夫はJCの理事長として昨年一年間活躍してくれた。労をねぎらって前頭筆頭にしたい。

B 続いて神明の藤尾益也。大工建設の西宮章泰。

D 高嶋酒類食品の高嶋良平、オールスタイルの中田美明に続いて

C キムラタンの木村喜彦はアトピー性の人でも着れるシャツを作ったよ。六枚目に初登場してもらおう。

A 結構だね。次が神戸女子短大の行吉誠之。女性で奮闘している夙月堂の下村俊子。タカハシパールの高橋洋三、カネテツデリカフレーズの村上健、オリバーソースの道満雅彦は堅実にやっている。

B 続いて西村屋の西村理、淡路屋の寺本勤、瀧鯉・木村酒造の木村喬二、そしてコスマモ・ポリタンのバレンタイン・エフ・モロゾフと永田良介商店の永田耕一。永田はJCI世界会議神戸大会の実行委員長だ。これでベストの布陣にな

つた。

—最後に三賞の選考を

A JCの理事長を務めた橋本哲夫には敢斗賞で決まりだ。

C 殊勲賞には大工建設の西宮章泰を推したい。権威ある建築賞の「BCS賞」を受賞したからね。

A 昨年は米の緊急輸入が話題になっただけど、神明の藤尾益也にはいろんな意味で頑張ってもらいたい。

C D 技能賞もこれで決定だ。

C 永らく取組場所として頑張ってくれたクラブのふらんが店を閉めた。お疲れ様と一言いっておきたい。

B とにかく今年はもっと活気ある年にしたいね。

—敬称略△栄弥にて▽



'94神戸酒徒番附選考座談会

神戸の個性豊かな新人登場

酒特集[3]

東／文化人
（審査員）

武田 則明
（フリーライター）
有井 基

伊藤 誠
（美術評論家）



——昨年一年間の文化活動を振り

返る、東“文化人”的酒徒番附。

アーバンリゾートフェア神戸'93の開催により、神戸は活気づきました。文化活動でお金もうけはできないもの。不況の中でも文化人の話題は事欠きません。では番附を見ていきましょう。

A 今回六十才の定年を迎えたのは元町画廊の岡田弘。B 風月堂のロドニー賞を受賞したところで、いい花道だったね。

A 文芸からいこう。まず小説家の伊良子序。“サンドンデスの橋”でマリーン文学賞をとった。

B 玉岡かおるは昨年末に初の書き下しエッセイ集を出したね。

C 武庫川女子大学の職員のたつみ都志は今年の神戸文学賞で佳作を受賞。

A 堀江珠喜もエッセイに講演に頑張っているよ。

詩人の時里二郎も良い仕事を

している。

C 筒井康隆の断筆宣言には驚いた。定年まであと一年、突っ張って欲しい。

A 後に続く人がもっと出てきて欲しいね。

B 音楽では小曾根真がアーバンリゾートフェア神戸'93のオープニングで大活躍。

A ソプラノの水澤節子はリサイタルを開いたが、入幕にはもう一息。

C 延原武春を忘れていた。昨年三十周年を迎えたよ。前頭筆頭だ。

B 建築の森崎輝行は“家展”など多くの展示会で、アーキテクチャフェアKOBÉを盛り上げたよ。それから鍵野洋子は老人医療の分野で必ず出てくるね。

A 美術では彫刻の新谷英子が作った“文化の灯”がアーバンリゾートフェア神戸'93の開催を記念して、市長によって点灯された。

B 海文堂の島田誠も頑張ってい

るよ。二枚ほど上に上げようか。

C 櫻忠は色んなパーティで大砲を鳴らしてくれた。健在だね。

B 造形の松谷武判はスペインで展覧会を開いたよ。彼はすごいね。木津文哉は昨年暮れ安井賞佳作賞をとった。安定してるよ。

A 造形の松本薰は、実際に買った作品が多いことを評価したい。“印象神戸絵画展”で花ひらいた山本豊は新人ながら五十才に近い。だから面白いんだ。

B 洋画の松下元夫は熟してきたね。また河崎晃一は第一回兵庫県芸術奨励賞をとった。

C 芸術奨励賞といえば邦舞の藤間莉佳子、洋舞の貞松正一郎も受賞したね。貞松は、チャイコフスキーや三大バレエが素晴らしかったよ。高瀬浩幸と共に頑張った。

B 若柳吉金吾は赤字を覺悟しながらも第六回目のリサイタルで充実した舞台を見せてくれたよ。

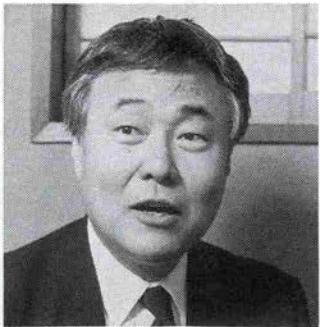
“雨”はいい。



伊藤 誠さん



有井 基さん



武田 則明さん

A 劇団神戸の夏目俊二の夫人小倉啓子は一人芝居が光っていたね。新入幕だ。

C 横綱の3人はどうだろう。

B 3人とも全国区だからね。変わらないよ。

A その他の話題はどうかな。

C 白羽弥仁は前回の映画でスポーツがつい、三億円で新作

"グリーンクリスマス"を撮るこ

とになっている。ますます頑張つて欲しい。

B 神戸製鋼ラグビー部の平尾誠二。日本一V6達成はたいしたものだ。

A 漫画の岡田淳は"路傍の石幼少年文学賞"をとった。さすがだよ。

B 小山乃里子はこれからも頑張つて欲しいね。ファンだから。

C 野口武彦は荻生徂徠をテーマにした本を出したが残念ながら今年も休場だ。松本宏も良い仕事をしていたが…。

B デザイナーの中西省伍が発起人となった"神戸カメラミュージアム"がオープンしたよ。

C だが中西はもう定年だ。若く見えるが。

A ファッションが弱いね。藤本ハルミもいい本を出したが定年を過ぎてるしね。

C 嵐城御流華道会議の議長、吉田泰巳はよく頑張っていると思うが。

B その通りだ。本も出したし、兵庫県いけばな協会をリードしているのは彼だよ。

C 浅黄斑という推理小説作家を知っているかい？ 有望株だそ

だよ。

A では今後の活躍を見ることと

して…三賞を検討しようか。

B 三賞には森崎輝行を入れたい

ね。とにかく展覧会を八回催したのは立派だ。技能賞でどうだろう。

A いいね。筒井康隆はあれだけ世間をあつと言わせたのだから、特別賞をあげたいくらいだ。

C 殊勲賞には貞松正一郎。あのチームワークはすごいよ。

A 敢闘賞には今一番乗っている若柳吉金吾。

B 決まりだ。今年は新しい名前がたくさん入ったね。これからも新しい人たちをどんどん入れていきたいね。

——敬称略△笑弥にて△



徒番附

平成六年

司

園樽瀧田
田本川崎

正博俊和久司作

締役

鬼柏中秋
塚井内田

喜八健博
郎一功正

進元

神戸つ子

西 〈経済人〉

横	張	大	張	關	張	小	張	出	殊	敢	技能賞
網	出	橫	網	大	出	大	出	小	勳	關	賞
網	橫	網	網	關	關	關	小	結	西	橋	藤尾
上	煙	伊	乾	嘉	細	島	井	林	川	今	伊
島	崎	藤	納	川	田	田	手	西	津	津	藤
達	廣	研	英	秀	數	光	正	雅	章	成	正
司	敏	一	文	夫	夫	夫	敬	晴	二	生	視
(珈)	織	(食)	(海)	(清)	(鐵)	(衣)	(鐵)	(倉)	(建)	(集客座)	
啡	維	品	運	酒	雜	裳	道	雜	庫	設	

前頭筆

頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭

岩大西木岡小河野小塚水井吉和五阿
田倉村下崎田本澤林本垣植岡田代部
源昭

弘 隆章晴俱 二博哲宏貞一憲友泰
三吳治夫彦義武郎司夫隆雄郎昌和久
(食化粧品) 清真機械製建貿食(船) 電子(不動產) 機械品

十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十 十

前頭兩兩兩兩兩兩兩兩兩兩兩兩

橋藤西高中木行下高村道西寺木

永本尾宮鳴田村吉村橋上満村本村

哲益章良美喜誠俊洋 雅 喬

モイ 耕夫也泰平明彦之子三健彦理勤二

(電子機器) 品 宅 品 雜 育 菓 珠 品 食 品 飲 食 清 製(家)

具

殊勳賞	西宮	橋本	藤尾
章泰	哲夫	益也	

勝負検査役

石沢菊山市杜奥川
阪井水本野山村上

春修啓 弘
生一輔泉之悠孝勉

〈西方〉取組場所

マユ羅水いド・ゼ | ル | ブ飛
イケ・侯 | 大 | アルズセ・鳥
ウナあ・花カシスラコラダ・ジントムア
エダざ・ニコサモラルトーン・ビージキル
エイ・みユケブ・スモん・松・ヨヤバ
フ・麗・神ム・ビカセイ赤田・内モン・ジテロ
リーリー・ビンアンクンピシリリ・山さ・イヌ
リーリー・ビンアンクンピシリリ・山さ・イヌ
ショビン部・ラスラ・アソノ・エ・ヤエ・手・ク
ハ・トネ・エ・ゾン・ハ・シ・ケ・子・リ・レ・格・フ・士・ラ

番附審査 木寺角重伊有武
下本田兼藤井田

嘉 則
健混宏亘誠基明

OLD KOBE
オールド・コウベ
神戸市中央区山本通4-2-13
神港学園100m東入る
TEL.221-1404

素舌洞
DÉSSIN
でつさん
神戸市中央区北長狭通1-5-12
TEL 331-6778

スフック
黒蝶番

神戸市中央区下山手通2-12
TEL 322-3253

か
PETTY THEATER
か

神戸市中央区下山手通2-1-13
第13シャルマンビル3F
TEL 332-2239

メンバーズ
醍醐

神戸市中央区加納町4-9-29
パシフィックアトラス 神戸ビル3F
TEL 391-4345

チャコの店

ひらぎ

神戸市中央区下山手通2-11-1
KSMビル1F
TEL.332-5616

ジャズ
ライブハウス

AB
ALBATROSS
神戸アラトロス

神戸市中央区中山手通1-22-10
ZOUビル2F
TEL 231-3300

STILL

神戸市中央区中山手通1-4-13
東門会館
TEL.332-5759

山菜料理 **六 筋**

神戸市中央区琴緒町5-4-5
TEL 231-0406

サントノーレ

神戸市中央区下山手通2-5-6
TEL.391-3822

神戸市中央区中山手通1-22-10
大和ナイトプラザ6F
TEL.221-3886

時雨不拘連日無休相勤申候	呼出し 小泉康夫	松本 宏	野口 武彦	休場
--------------	----------	------	-------	----

神戸酒

東〈文化人〉

技能賞 森崎 輝行	殊勲賞 若柳吉金吾	貞松正一郎
砂かむり		
鳥越 藤本ハルミ	西村芳樹	山本哲

〈東方〉取組場所

吉イ! サカバイブで、時ニアアア
デルヒランホー、つゝ代ト本シテ
カイ。ビスチウボaska...スイ
ジ。ラア・ヨ。んシ山く喜...ツ
き千んハエ北山く、瓢ガ六な...た
く人たウ野芦ら、喜...段い京や
ス代んヌブ...テ官...リ薔薇...マ...ヒ...
イ。栄コ...リ薔薇由コフルサGク...
ル五珍...加...ア...ンEイカエ
ル...トめ...利む...トナ...N...ト
タ鈴...ダだ...太...ろスのノ...ンワ
イ...イジ...郎エ...ト壱...神ズ...
ム藤バユア...ルメバ...レ戸コ生オ

小結	関	大関	横綱
張出小結	張出関脇	張出大関	張出横綱
(造形)	(神将棋)	(音楽)	(美術)
前頭筆頭	前頭筆頭	前頭筆頭	前頭筆頭
頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭	頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭	頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭	頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭頭

前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前
前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前
前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前
前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前
前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前	前前前前前前前前前前前前前前

十両筆頭	十両筆頭	十両筆頭	十両筆頭
両両両両両両両両両両両両両両	両両両両両両両両両両両両両両	両両両両両両両両両両両両両	両両両両両両両両両両両両
山藤伊小時堀岡鍵村滝河岡松伊松小 本間良倉里江本野上崎田下藤本山	莉子え乃里	佳啓二珠一洋和り晃元ル	豊子序子郎喜郎子子子一淳夫三薰子(放
洋邦小演詩論樂築画樂形(送)	洋邦小演詩論樂築画樂形(送)	洋邦小演詩論樂築画樂形(送)	洋邦小演詩論樂築画樂形(送)
画說劇)	画說劇)	画說劇)	画說劇)

蒙御免

行
元高中望
永橋西月

定正孟勝佐

取

木朝長田陳
口比部辺
奈文治聖
衛隆郎子臣

勧編集室